1
お狐さまのワケアリ嫁
Okitsune-sama no Wakeari Yome
Presented by
mono

あるところに、いにしえより
狐に護られし村がありました

山へ入る者を守り病を治す狐を
村人は「お狐様」と崇め奉っていました

しかし いつしか狐は村へ
生贄を求めるようになりました
拒めば天災が降り注ぎ村人は
狐を恐れるようになりました

そして訪れた100年に一度の
生贄の儀
誰も生贄になど
なりたくはありません

しかし誰かが行かねば
村は滅びてしまいます

「ならば」

「私(わたくし)めが参りましょう」

「その代わり…」

…ヲ/ﾟ ヲ/ﾟ ヲ/ﾟ

おはようございます！

朝ですよ！

今日は3つ先の山まで行くんでしょう？早くしないと日が暮れちまいますよ

さあさ起きてください！朝餉（あさげ）の準備ができてますよ

ああ…
そうだった
…
みや
帰りは遅くなるので
今夜は先に
休んでいるように

そう
あの男こそが
人を喰らい
村を滅ぼさんとする
恐ろしい お狐様

そして俺は
生贄だったはずの「みや」

どうか…
息災で…

はっ

早くせんと
洗濯物が
乾かん！

ふ――
やっと
終わった

それにしても

こんな広いお屋敷
どうやって ひとりで
切り盛りしてたん
だろうか

ずっと
ひとりで…
よし！今日は
久しぶりに
風呂にしよう
は――
気持ちええ～
村にいたときは
風呂は水を張るのも
一苦労で
こんな たくさんの
湯 見たのは
初めてだったなぁ

あの頃とは
いろんなことが
変わっちまった…

俺の身の上も

俺のからだも…

白くて
柔らかい…

おなごの
からだだ…

…
ここ以外は

近頃 忙しくて
触ってなかった
もんなぁ

ん
はあっ
ぴちゃ
はっ
ピチャ
気持ちいい……
はっ
はあ
スリ

はぁ

このまま出したら

お湯…っ

ん…っ

汚れてしま……っ

もういきそ…

…や

みや

ぎゅっ

は入ってくるならくるってひと声かけてください！

声はかけるべきだ

すまない

…って

どうしたんです
そのケガ！

ん…？ ああ
かすり傷だ
それより

みや
お前の方が
辛そうだな

えっ！

バチャ

だだだ大丈夫です！

みや

元は男の身だったお前をおんなにつくりかえてきたのは私だよ？

私の精水を飲むたびお前のからだは変化する…

最初は肌

肉付き

声…

「ここ」で最後だ

あっ

そこは…っ
すぐ出ちまいます、って

よい

あ
あっ

あ…っも、
駄目です…っ

ほら、楽にしてやる

ひゃく

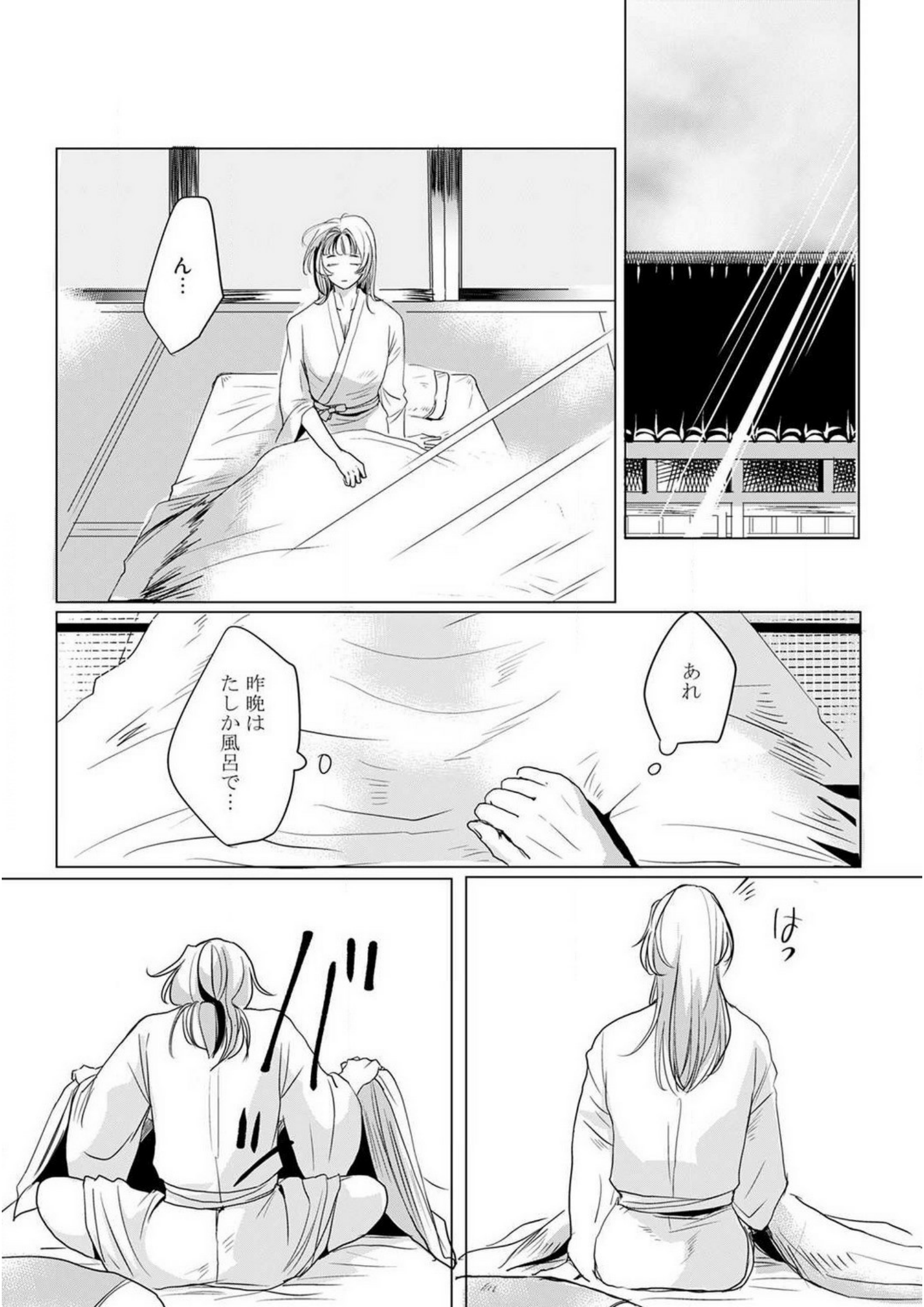
ん、んっ！

ひゃくっ

みや

ん
はい……
ちゅぷ
スリ…

はぁ
ど、
どうです…？
はぁ
ああ、
はじめに比べたら
ずいぶん上手になった
ほら、残さず
飲みなさい
ん
ごくん


ん…
あれ
昨晩は
たしか風呂で…
はっ

とうとう俺…
男じゃなく
なっちまった…

モフッ

モフ？

ちいと癪だが
この姿は
めんこいんだなぁ
さ
一緒に
もうひと寝入り
しましょうかね
To be continued‥

2
お狐さまのワケアリ嫁
Okitsune-sama no
Wakeari Yome
Presented by
mono

お狐様はときどき
人から獣の姿になる

これがお狐様のもとの姿なんだろうなぁ
よーしよし
よし
あはは
めんこいな〜〜！
うちに住みついてた犬っころを思い出す…
チョコリ懐かしい〜
みゃ
スッ

あっ すみません！ 犬っころだなんて 思ってません！

犬っころ…？

なんでも ありません

って

スッ裸!!

急に人になると びっくりしますよ

そうか…？

とりあえず これ羽織ってください

あ…この傷… この前の

「かすり傷だ」

良かった ちゃんと治って

あんまり 心配かけんで くださいね

なんて

あっあのう
まだ真昼間ですし
ぎゅっ
せめて
こういうことは
布団の上で
お願いします！

すまなかった
確認したかっただけ
なんだか

え？

みや

身体の具合は
どうだ

変化が
あったろう

変化…ですか

その様子だと
効果はあった
ようだな

見せてくれるか

…はい…

これは ちょっと いや かなり恥ずかしいです！

ふむ 見てくれは 人のおなご そのものだな

びくっ

んっ

濡れもするが…

ふるふる

？

どうした？

その ぬるぬる してるのが

もしかして おれ 漏らしちまった のかと

みや、お前

それに

触られるとっ、
へん、ですっ

童貞(わらし)だったか

んぐっ

しかし、お狐様の供物は
童貞 処女と決まっとると
長老が

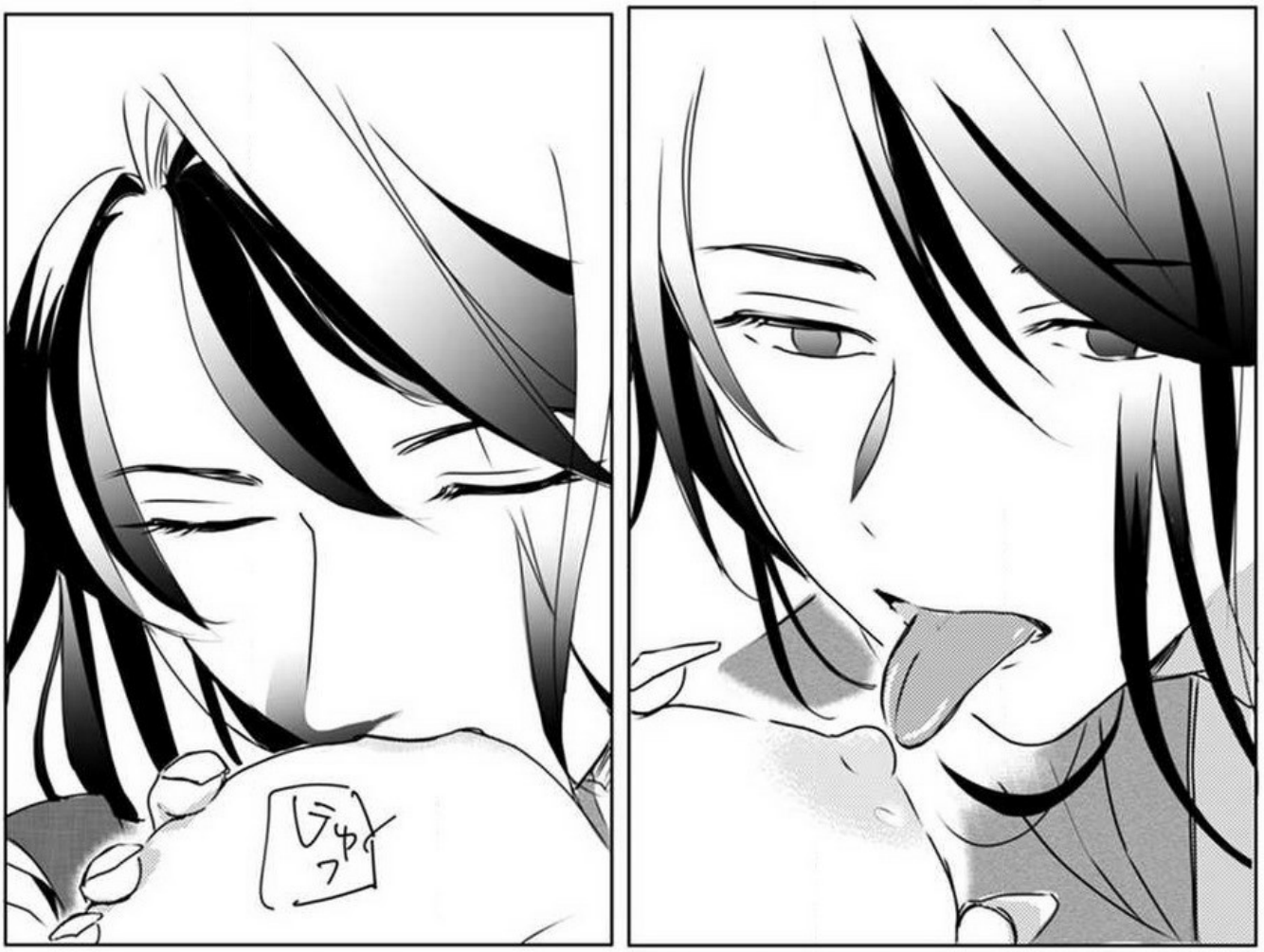
……

なるほど

そういうことに
なっているのか

まぁいいや みや
覚えておきなさい

はっ はい



あっ また
ぬるぬるしたのが…

ここはな
お前が快いと感じれば
濡れるようになっている
だが
まだ不完全だ

あっ
じんじんするっ
あっ
あ
んん〜っ

はあ
はーー
ん、もう気をやれるのか
この調子ならばじき月のものも
みや？
キュン

——さて
この屋敷では、台所へ行けば
いつでも食物があり

これは

子供の時分に聞いた
〝かくれざと〟の
米減らぬ椀のようだな

食べてなくなれば
次の日には
また置いてある

夕餉は
何にするかな…

蕎麦…
天ぷら…

よし

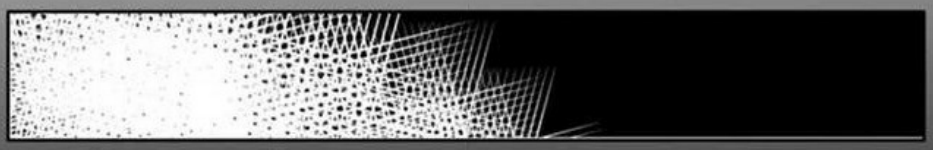
山に山菜を
採りに行くぞ！

山菜採りなら
おみやって
言われたもんよ！

お、あったあった
こごみにわらびに…
山うども欲しいな
今日は帰ったら
あく抜きだ
春か…
狩りのできない
子供の頃は
みんなで山菜を
取りに行ってたな

あの頃は
近所の子供らと
毎日 山で遊んでいた
…楽しかった思い出だ

あんなことが
なけりゃあ…



しかし ここだけの話
本当に山で
いなくなったのかねぇ

ああ…
あの親だろう？
まさか親に……

ゴホッ
ゴホッ
ゴホッ

むっ！
大丈夫か

ゴホッ

どうした？
咳が出るから
起きちゃだめだ

ゴホッ

ね、お兄ちゃん

なんだ？
何かいるか？

喜一ちゃん
帰ってくるよね

……っ

うん
帰ってくるよ……！

結局、喜一ちゃんは
見つからなかった

熊にやられたか
神隠しにあったか
それか大人たちが
言ってた通り
本当に親に…？

子ども…？

生きてるか…!?
おい！
お前、どうした！
大丈夫…
え…？

おみや！
獲れたか？

俺のもやるよ！
むつに食わせてやれ！

喜一ちゃん…！

To be continued▸▸

3
お狐さまのワケアリ嫁
Okitsune-sama no Wakeari Yome
Presented by
mono

喜一
それ……!

また親父が
飲んだくれてさ

イテテ

「お前がいなけりゃ
ちったぁ楽できたのに」って
お袋が死んでからは
しょっちゅうさ
もう聞き飽きたよ

…でも、
ときどき思うんだ

もしかしたら本当に
俺はいない方が
いいのかもしれないって

う…

！

喜一ちゃん！

あんたは…おみや…

うん！

…の、おっかさんか？

いや違う

本当におみやなのか!?

おみやのおっかさんか
むつの大人の姿みたいだ
どうしておなごに
なったんだ？

うーん
これは話すと
長くなるんだけど…

それより
喜一ちゃんは10年も
どこに行ってたんだ？
みんな心配してたんだ
俺もむつも

喜一ちゃんの
親父さんだって
俺…

ぎゅっ

リン…

何も覚えてないんだ…

喜一ちゃんは
10年あの姿の
ままだった
あれは
本当に神隠し
だったんだろうか

お狐様なら
何か知ってるのかな
カタン
ズズー
ん、おいしい

あ
お帰りなさい
ああ

くん
…臭う
エリン
えっ
あの？

みや
今すぐ風呂に入るぞ
すごい顔してるし
耳も出ちゃってる
えっ？はい
あーっ
自分で歩きます～
ザ
よし
もう大丈夫だな

あのぉ…俺そんなに汗臭かったですか？
すみません…
狸の臭いがした
たぬき？あの、山にいる狸…ですか？
ああ 2つ山をこえた先に古い狸がいてな
人を騙し拐かし食らう
そして化けるのがうまい
私も玉鱗という宝玉を奪われた我々に代々伝わるものだ

ぎょくりん…

みや
浸からないのか？
人は裸だと
冷えるんだろう

早ッ

あっ入ります！

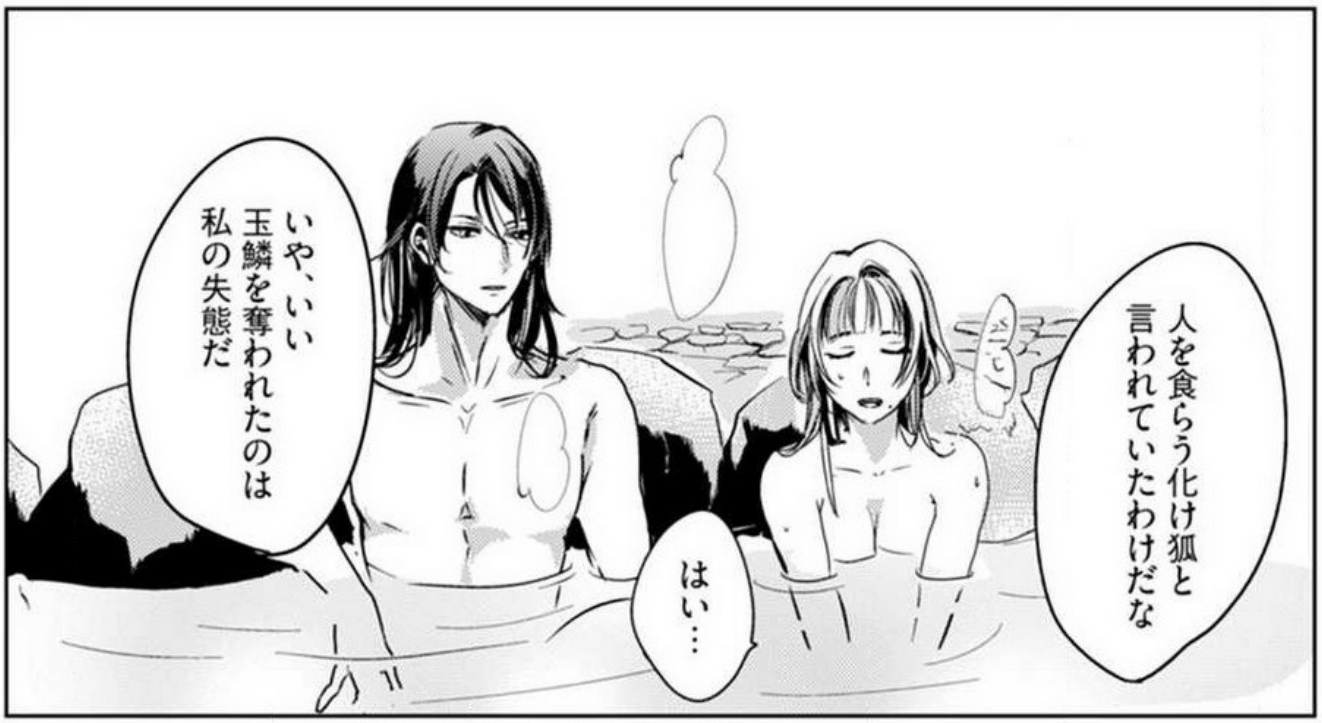
玉鱗は

対になる
2つの玉で
生き物を癒す

だが そのひとつを
狸に奪われた

あ…そういえば

村では「お狐様はかつて
人を癒していた」と
言い伝えられていました
それがいつの間にか…


人を食らう化け狐と言われていたわけだな
はい…
いや、いい 玉鱗を奪われたのは 私の失態だ

その
お狐様 俺は生贄として ここに来ましたが

お狐様は そのうち俺を 食べるおつもりで…？

そもそも 供物の代わりに 人を癒し村を守る
これが私の祖先が 力を得る代わりに 結んだ言霊だ

だが力を失い
人を癒せぬ私が
お前を食うことは
その言霊に反する

しかし、みや

お前は このような身体に
なるよりも食われた方が
良かったか？

えっ まさか

俺が生贄になった代わりに
身体の弱い妹は金持ちの家で
面倒を見てもらえてます

俺は あいつに
薬も買えないし
腹一杯 食わせて
やることもできなくて…

なので食われることは怖かったけれど悔いはなかったです

妹はもちろん反対しましたが…

けど今こうやって元気にやっている方がむつもきっと喜ぶだろうし

お狐様と一緒に暮らすのは楽しいです

ずいぶんと髪も伸びたな

ここに来たときはたいそう短かった気もするが…？

女女
村の男衆はみんな
あのようなもんです
どうして伸ばした？
結うのが面倒だろうに
ニわは
大変だな
寝ガセ
ですね…
？
え？
うーん…
周りの女衆はみんな
髪は長くしてたもんで
そういうもんかと
あ…
ありがとう
ございます
あれも似合っていたが
長いのも良いな
人のことには疎いのに
こういうのを
どこで覚えたんだ…

あの…お狐様

どうした

その、俺でよければ髪、結いましょうか？

髪か

気にしたことはなかったが…

煩わしそうだったか

あっ！いえ

それならいいんです！すみません出過ぎたことを

いや頼めるかみや

はいっ！

お狐様は別嬪なのに気にしない方なんだよなぁ

あっ！

喜一ちゃんのことお狐様に言うの忘れてた！

は

勝手に連れて来ちゃったのお詫びしないと

しかも幼なじみが昔の姿のままで現れたなんて真っ先に相談することだったのに

なんで忘れてたんだろう…

お狐様が風呂から上がってからでいいか…

喜一ちゃん飯は食えるか？

喜一ちゃん？

喜一ちゃん！

どうしたんだ？
どこへ行くんだ

おみや
ごめんな

え…
よくやった 喜一
きい…ち
リン
リン
アッハッハッハ！
こんなに簡単に コトが運ぶたぁ あいつも耄碌したなぁ
ふぅん
これが あいつの ニンゲンの嫁ねぇ
こんな泥臭いのの どこがいいんだか

刑部様こちらを
そうそうコレだよ
…もう狐は気づいたでしょう
ここは早急に離れるのがよろしいかと
あーわかってるよ
じゃあ用事も済んだし帰るか
俺たちの山に

はい
刑部狸様
みや…！
To be continued‥

4
お狐さまのワケアリ嫁
Okitsune-sama no
Wakeari Yome
Presented by
mono

みや

お狐様…

あ…

可愛いな
お狐様
俺で…いいんですか？
俺 この前まで男だったし
おなごらしくないし
みや、
お前は可愛い

みや私の子を産んでくれるか？

はい…

俺…頑張ってたくさん子狐を産みます…！

ん？あれ…？俺男だけど産めるのか…？

まっでもお狐様ならそのくらいなんとか…

……ん

ん…なん…？

ムニ

な

なっ

フーン？

わ——

——っっ

ふん

ただ観察していただけだろうが

こんな色気も何もない人間の娘のどこがいいのやら

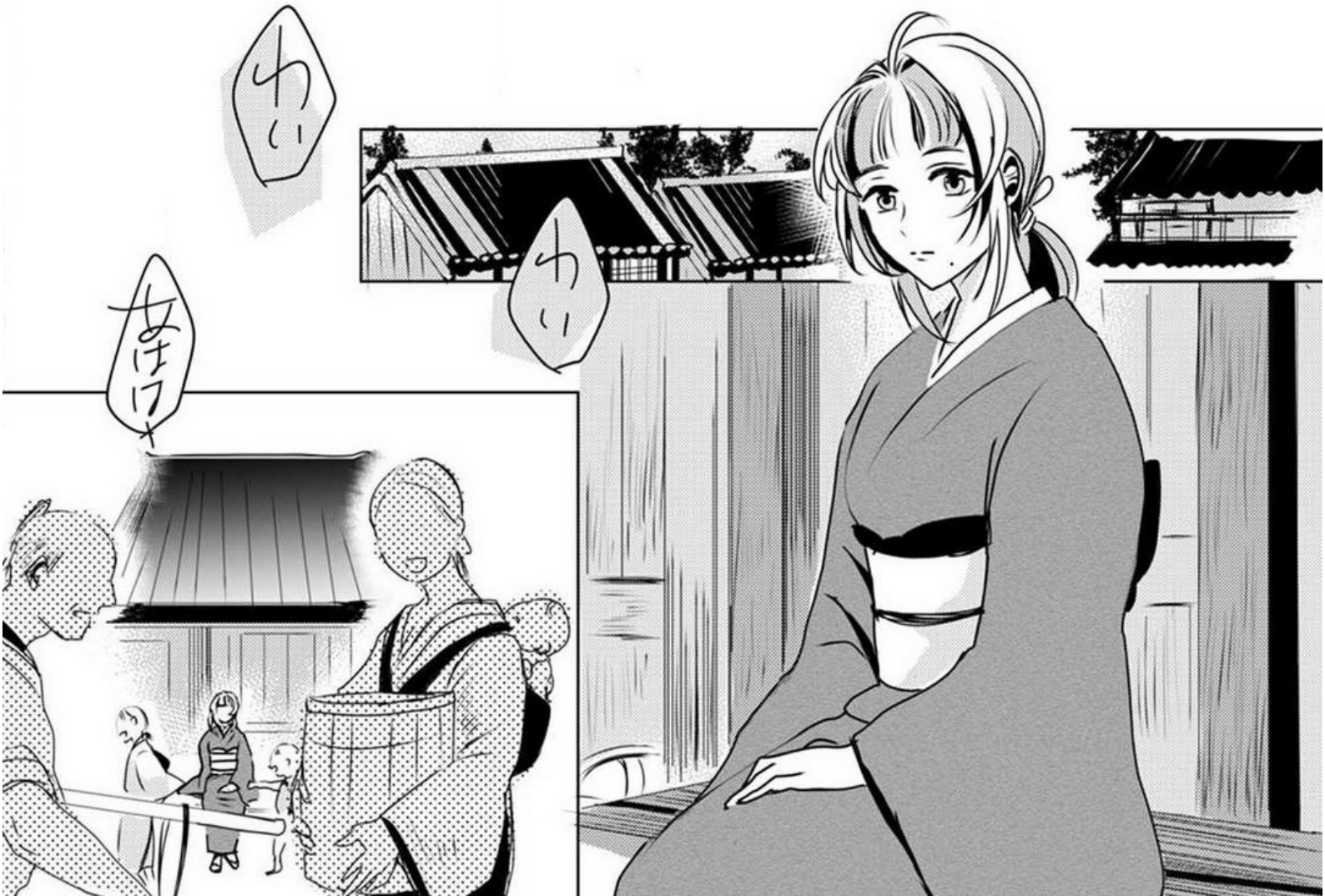
あの

ここ…どこですか

ここか？

ここはな、俺の山だ

刑部様は山を統べるお方だ
そうだ
これで名実ともにな


わい
わい
あほワ

お嬢ちゃん
はっ
元気がないね
腹減ってるならこれをやるよ
あ…
ありがとう
いただきます
……
おみや
喜一…
なあお前はどうしてここにいるんだ？村へは帰れないのか

…俺さ
あのとき親父に
また殴られてさ
いやになって
山に入ったんだよ
もう帰って
くるもんかって
思ったよ

でも

腹…へった…
寒い…

ガサッ
あ
あ、あ
死ぬのか…？
死ぬのが怖い…！
死んでもいいって思って出てきたのに
なんだ お前

どうやって入った？
大丈夫だ行っていいぞ
ん？なんだお前…？
へえ～
ペタ
？
ペタ
ふぅん？
まぁいい
ここに足を踏み入れたヤツはもう帰れねえ
お前はこれから俺のしもべだ

喜一ちゃん…
あ、喜一様～
ああ この前 膝が痛むと 言っていたが 塩梅はどうだ？
喜一様の 薬のおかげで 楽になりました ありがたいことです
これ、刑部様に 持ってってくだせぇ
おみや
すまないが ここから帰すことは できない
刑部様は 狐のものをすべて 欲しがるお方だ

なんの用だ
てめえら人間は
臭うから
すぐわかる
てめえはなんで
狐の嫁なんかに
なった？
俺たちは人間より
ずっと長くを生きる
あいつはな
本当は嫁取りなんて
する必要がないんだよ
それは…
お前が此度
生贄となった者か

私はお前を食わぬよ

村へ戻るといい

俺は…！

村には、戻れません…

お狐様は…

俺に情けをかけてくださった…

あいつが人間に甘いのは今に始まったことじゃねえ

そもそもあいつの…まぁいい

ここの村の人たちは…

そうだ
あいつらは
みな俺の奴隷だ

俺の村ではお狐様が
人を食う化け物だと
言われてた
でもあの方は
そんなことはしない

人をさらって
食ってたのは
お前なのか

食わねぇよ
美味しくもねえしな
あいつらは
貴重な労働力だ
殺してどうする

じゃあ なぜそれが
お狐様のせいに
なってるんだ

決まってんだろ
あいつが
嫌いだからだよ

誰かが狐のせいだと
言えばたちまちに
恐怖となって広がる
人間てのはそういうもんだ

それをほっておいたのは
あいつだ
何にも興味がねえからな

昔っから
俺のことだって…

チッ

あいつの嫁を寝取ったら
面白いだろうなあ

お前…まだ
おぼこなんだろう？

やったこたぁないがまあいい
い、いやだ！
はなせ！…ぐっ
くそ…女ってのはこんな非力なのか。
こわいお狐様じゃないとこわい…！
あ…

いい加減になさってください刑部様

ゲホッ
くそっ…喜一〜〜
…え？
お
男に
戻ってる…？
To be continued

5
お狐さまのワケアリ嫁
Okitsune-sama no
Wakeari Yome
Presented by
mono

男に…戻ってる？
きっ
きっ
喜一〜〜〜！
刑部様っ
えっ

お狐様!?
ゴメン
刑部

お前は昔から
いつも悪戯ばかり
していたが

今度ばかりは
やりすぎだ

う、う…兄ぃ…

玉鱗が欲しかったならば
素直にくれと言えばよい

だが人を
巻き込むな

兄ぃ…？

隠れ里のこととといい
お前の父君に
報告せねばならんぞ

えっ

お狐殿

刑部様も反省なさっております

お二人はご兄妹のように育った仲

刑部様も寂しさから気を惹きたかったがためのことです

どうか勘弁を

刑部様

っ…

ごめんなさい…

もとより
これは私どもに
扱えるものでは
ありません
お狐殿
こちらは
お返しします
おみや
すまなかった
おみやを
利用したのは
私です
どうか
私めを手打ちにして
ここは納めて
頂けませんでしょうか
刑部狸…
あの娘はな

私が子供の頃
刑部の父親のもとに
預けられていたとき
兄妹同然で育ったのだ

兄ぃ！

兄ぃ！

兄ぃ
わたしも！

随分と私に懐いていたが
私が出ていってから
素行が悪くなり父親から
山を追い出されてしまった

次に会ったときは
若い男の姿だったが

あんなに文を書いたのに
一度も返事をくれないし

一度だって
会いに来てくれなかった

あんたは
いつもそうだ

あんたの大事なもんを
ぶっ壊してやる
この冷血狐！

文は来ていたが面倒で

あれが玉鱗を
奪っていったのは
そのあとだな

お狐様…
それはお狐様にも
原因があるかと…

みや、お前の昔なじみ…喜一と言ったか？

えっ？

はい、子供の頃山で行方がわからなくなって…

もう…死んじまったものだと思っていたんですが

あの者は普通の人間ではない

え？でも、昔の喜一ちゃんは普通の童でした

死んだおっかさんは外から嫁いできたって聞きましたが

隠れ里の人間たちはおそらく傷ついた者たちだったろうが…

人間を助けていたのは喜一の「力」だ

あの者の父母はどちらかは人間ではないだろう

おそらく私や刑部の術はあの者には効かない

うまく隠してはいるがあの者は我々の天敵の血を引いている

刑部は知っていて
そばに置いている
ようだがな

天敵…？

俺は…喜一ちゃんが
普通の人でなくても
喜一ちゃんが
生きていてくれて
嬉しかったです

お狐様

喜一ちゃんを
許してくれて
ありがとう
ございました

…みや、お前が
いつも持っている
錦守があったな

え？　はい

妹が、人身御供（ひとみごくう）になる俺に
持たせてくれたんです

これは
借りよう

守

※生贄として人間を神に供えること

ところで
みや

髪はすまなかったな
せっかく伸ばして
いたところを

ずいぶんと
懐かしい姿に
なったものだ

あっ!!

や、やっぱり
ある!

でも
これじゃあ
子狐を産めない…

ふむ…
これは私にも
今は無理だな

えっ

喜一とやら
なかなかどうして
優れた術を使う

はい

お狐様
感心している
場合では
ありません…

力を入れて
みなさ〜

みや

このまま男子(おのこ)が良いならば それでもかまわない

ただ お前は もう人とは違う

里に戻っても 他の者との差異に 苦しむことに なるかもしれないが

戻るか? 妹のところへ

…っ

お狐様はっ

誰かに 起こしてもらわないと 起きないし

髪も誰かが 結ばないと ボサボサだし

だから

俺に ずっとお世話を させてください

そんでもし お狐様が許して くださるんなら

今度こそちゃんと
お狐様の嫁に
してもらえますか

そんで、その、
こぎつねを…

子狐…？

わかった

では改めて
お前を嫁に娶ろう

ぽっ

ぽっ

ぽっ

ついに
やってきて
しまった…

初夜
このときが！

玉鱗を取り戻したお狐様は
俺の髪が伸びる間もなく
女子(おなご)の体に戻す霊薬を作った

お狐様曰く

人を癒すのは
お狐様の妖術…
などではなく

ふたつの玉鱗から
滲み出る水を使って
薬を作ることが
できるのだという

雌雄つがいの魚が住んでいる

元に戻るのに
またお狐様の…を
飲んだりするのかと
思ってたんだけどな…

喜一ちゃんの術と違って
時間をかけて女子にされた
俺の身体は

もうすでに
「女子の身体」なんだろうな

お狐様
不束者ですがっ
どうか
すっ
末永くお側においてください
みや
顔をあげなさい
初めて会ったときお前は私を怖がらなかったな
私が人を喰う妖狐だと思っていながら
ずっとお前に私の体液を分け与えていたのは
お前(人間)にどんな変化があるのか興味があったのもあるが
あれは我々のめおとの契りだ

もう お前は私のものであり

私はお前のものでもある

みや

…もし俺が村に帰ると言ったら

うーん

仕方あるまいな私はここからお前のことを想おう

お狐様

俺の全部あなたのものにしてください

熱い

熱い
はっ
はっ
あッ
あっ
お狐様
この方はこんなに
熱い身体をしていた
だろうか
みや
はっ
はッ
おきつねさまぁ…っ

お狐様…？
みや
こちらへおいで

見てみろ
なんでしょうか…？
むつ…!!
むつが…子供たちと外を出歩いてるなんて
本来ならばこちらに出向いてもらうものなのだが

錦守りの持ち主に、と
私の作った薬を届けさせた
今は町の子供たちと
手習いを
しているそうだ
…っ
お狐様…っ
ありがとう
ございます…っ
みや
…いや、三弥彦
お前は美しい

あるところに、いにしえより
狐に護られし村がありました

山へ入るものを守り
病を治す狐を
村人は「お狐様」と
崇めていました

しかしいつしか狐は
村へ生贄を求めるように
なりました

拒めば天災が降り注ぎ
村人は狐を恐れるように
なったのです

そしてあるとき
ひとりの娘が
村の人々のため
自ら生贄となりました

END